「世界の眼科用薬剤市場2022年－2031年：疾患別（ドライアイ、緑内障、感染症/炎症、網膜疾患、アレルギー、ぶどう膜炎、その他）、製品タイプ別」調査レポート（市場規模・動向・予測）を取り扱い開始しました

2022年10月17日
株式会社マーケットリサーチセンター

株式会社マーケットリサーチセンター（本社：東京都港区、世界の市場調査資料販売）では、「世界の眼科用薬剤市場2022年－2031年：疾患別（ドライアイ、緑内障、感染症/炎症、網膜疾患、アレルギー、ぶどう膜炎、その他）、製品タイプ別（処方薬、OTC医薬品）」調査資料の販売を2022年10月17日 に開始いたしました。眼科用薬剤市場規模、動向、予測、関連企業の情報などが盛り込まれています。

■レポートの種類：グローバル市場調査レポート
■レポートのタイトル：世界の眼科用薬剤市場2022年－2031年：疾患別（ドライアイ、緑内障、感染症/炎症、網膜疾患、アレルギー、ぶどう膜炎、その他）、製品タイプ別（処方薬、OTC医薬品）
■英文タイトル：Ophthalmic Drugs Market （Disease Indication: Dry Eye, Glaucoma, Infection/Inflammation, Retinal Disorders, Allergy, Uveitis, and Others; and Product Type: Prescription Drugs and OTC Drugs） - Global Industry Analysis, Size, Share, Growth, Trends, and Forecast, 2022-2031
■発刊日：2022年10月3日
■出版社：Transparency Market Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）
■レポート形態：PDF（Eメールによる納品）

■主な掲載内容

眼科用薬剤は、白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、近視性脈絡膜などの様々な眼疾患の治療に使用されています。子供や大人の間で最も一般的な眼病は、遺伝的に決定されるものがあります。網膜色素変性症、脈絡膜症、スターガート病、錐体部ジストロフィー、レーバー先天性黒内障は、遺伝子治療市場に大きな影響を与える主要な遺伝性眼疾患です。加齢黄斑変性症、白内障、糖尿病性網膜症、緑内障などの加齢性眼疾患は、失明や弱視の主な原因となっています。早期発見は、さまざまな眼病によるダメージを食い止め、あるいは遅らせる上で重要な役割を果たします。治療が遅れると失明に至ることもあります。
点眼薬、軟膏、シロップ、カプセル、ローション、注射は、世界中で眼科用薬剤の処方箋の上位を占めています。エリスロマイシン眼軟膏は、新生児結膜炎や新生児眼病など、新生児の目の感染症の治療に使用されています。

緑内障やドライアイなどの眼科疾患の増加が、市場を牽引しています。世界保健機関（WHO）の2021年の失明と視覚障害の実態によると、世界で少なくとも22億人が近視または遠視の障害を抱えているとのことです。このうち少なくとも10億人、つまりほぼ半数において、視力障害は予防できたはず、あるいはまだ対処できていないとされています。さらに、2020年8月 にAmerican Journal of Ophthalmologyに掲載された調査「Patient-Reported Burden of Dry Eye Disease in the United States: Results of an Online Cross-Sectional Survey」によると、米国におけるドライアイ疾患（DED）の有病率は5％から15％で、年齢とともに上昇するとのことです。

世界中の眼病患者の間で、包括的な知識と意識の高まりが見られます。複数の企業や団体が、眼疾患に関する認知度を高めるためのキャンペーンを展開しています。2022年9月 、バイオ医薬品のTarsus Pharmaceuticals, Inc.は、痛みを伴う誤診された眼瞼疾患に対する「Look at the Lids」キャンペーンを開始しました。早期治療を求め、視覚障害を予防するための目の病気に関するこうした健康教育イニシアティブの増加は、予測期間中の世界の眼科薬市場の活性化につながると予想されます。

眼科領域の医薬品市場は、ドライアイ、緑内障、感染症・炎症、網膜疾患、アレルギー、ぶどう膜炎、その他など、適応症別に細分化されています。網膜疾患分野は、2031年までに35%のシェアを占め、世界市場を支配すると予測されています。この分野の成長は、高齢者人口の増加、黄斑変性症の有病率の上昇、糖尿病性網膜症市場における有望な薬剤の強力なパイプラインに起因すると考えられます。
緑内障分野は、予測期間中、市場で2番目に大きなシェアを占めると予想されます。緑内障の有病率の上昇と緑内障の診断・治療に関する認知度の向上が、このセグメントを牽引しています。
ドライアイ疾患市場は急成長しています。2021年12月 にFrontiers in Medicineに掲載された論文「Estimated Annual Economic Burden of Dry Eye Disease Based on a Multi-Center Analysis in China」によると、「ドライアイ病の年間経済負担は、中国の多施設分析に基づきます。A Retrospective Study”によると、ドライアイ疾患は、米国では女性で5番目、男性で9番目に多い眼科疾患となっています。

眼科用薬剤の世界市場は、治療区分の観点から、抗炎症剤、抗感染症剤、抗緑内障剤、抗アレルギー剤、抗VEGF剤、その他に分類されます。2021年の眼科用薬剤の世界市場は、抗緑内障薬セグメントが支配的でした。しかし、ジェネリックメーカーとの競争激化により、予測期間中はこのセグメントの成長が停滞することが予想されます。
抗VEGF薬セグメントは、予測期間中に最も高い成長率を記録すると予測されます。新生血管加齢

黄斑変性の進行を抑制する硝子体内投与型抗VEGF製剤の導入が、このセグメントを牽引しています。

眼科用薬剤の世界市場は、製品タイプによって医療用医薬品とOTC医薬品に二分されます。OTC医薬品は、予測期間中、市場で大きなシェアを占めると考えられ、このセグメントの成長は、外来医療への嗜好の高まり、費用対効果の高い医薬品の入手、すべての流通チャネルにおけるOTC医薬品の大きな市場浸透に起因していると予測されます。

2021年の眼科用薬剤の世界市場は、北米が支配的でした。同地域では、眼疾患に対する意識が高まり、堅牢な医療インフラやファイザー社、アルコン社などの主要企業が存在することから、最も高いCAGRで成長すると予測されます。
アジア太平洋地域は、予測期間中、世界市場の中で最も急速に成長する地域となる見込みです。これは、同地域における眼科疾患に関する有病率と認知度の上昇に起因しています。Investigative Ophthalmology & Visual
Science誌に掲載された研究によると、アジアにおける緑内障患者数は2020年に約4990万人となり、2040年には7680万人に達するとみられています。この地域の地元企業は、患者さんのために新しい治療法を生み出し、販売するための戦略的イニシアティブを開始しています。

■レポートの詳細内容はこちら
https://www.marketresearch.co.jp/data1/ophthalmic-drugs-market-disease-indication-dry-eye-glaucoma-infectioninflammation/

■レポートに関するお問い合わせ・お申込みはこちら
https://www.marketresearch.co.jp/contacts/

■調査会社Transparency Market
Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）について
https://www.marketresearch.co.jp/Transparency－Market－Research/
株式会社マーケットリサーチセンターはTransparency Market
Researchの日本での正規販売代理店です。

■株式会社マーケットリサーチセンターについて
https://www.marketresearch.jp
主な事業内容：市場調査レポート販売、市場調査サービス提供
本社住所：〒105－0004 東京都港区新橋1－18－21
TEL：03－6161－6097 FAX：03－6869－4797
マーケティング担当 marketing@marketresearch.co.jp

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com